

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1 年次生 岡本 豪

この度、国際交流基金の助成を受け、2018 年 8 月 18 日から 27 日までの 10 日間、カナダ・バンクーバーでの語学研修に参加したので報告いたします。

1. 語学学校 Vancouver International College

この語学学校では様々な国籍の人間が集まり、語学力の向上を目的としていました。今回私が参加したクラスは日本の薬学生を対象とし、医療英語の向上や医療機関での見学が主な内容でした。

校内では「英語以外の言語禁止」というルールがあり、初日は驚き焦りましたが、何の問題もありませんでした。理由としては、校内の誰もが英語を使ってコミュニケーションを取ることを目的としていたため、上手く表現できないものの、雰囲気がとても良かったように思います。日本人はやはり内向的だ、ということが良く分かりましたが、逆に周りの目を気にせずに英語を使いたいという気分になりました。この感覚は留学で一番大きな役割を持っていたと思います。

僕らを教えてくださったのは Aisyah Pierce 先生です。日常会話、冗談、発展した会話など、笑いを交えて授業を行ってくださいました。内容は病名、薬剤、症状の英語表現、患者とのコミュニケーション術など、書ききれないほどの医療・言語に関することを学びました。日常会話に関してはそれほど苦労しなかったものの、やはり医療に関連した英語となると難しいと感じたのが正直な気持ちでした。そんな時でもゲームを考え、楽しみながら学習できたのも良い点だったと思います。日本では文法を習って問題を解くといった授業が普通ですが、実際に会話し、楽しく学ぶ方が英語力の向上に繋がると分かりました。このように、留学ならではの語学力向上の意味を実感できたため、語学学校には大変満足できました。

2. 医療機関見学

カナダのダウンタウンには日本と違って高度な医療が集中しています。日本のように地域別に国立・公立の病院が点在しているわけではなく、一箇所にまとめられていました。

一つ目の見学場所は「St. Paul's Hospital」という、重病者や急患者に高度な医療を提供できる施設でした。薬学部対象のプログラムだったので、病院見学というよりは主に病院内の薬剤部の見学をしました。見学が始まった瞬間に驚いた事は、病院内の薬剤部に部屋の名前が付いていない事です。日本では部屋には名前があり、建物の中のどの位置かも分かるようになっています。しかし見学先の病院では、薬を保管している場所が外部の人間に知られてしまうと強盗に狙われるからという理由で、部屋の名前も場所も一般人には非公開となっていました。

地下に薬剤などの情報が集められた情報室があり、薬の副作用や使用方法、その他薬に関係する様々な情報を調べられるようになっていました。

カナダでは薬剤師が二種類存在します。プロと呼ばれる薬剤師は主に薬剤の管理や調合などを行い、それ以外の方は患者に直接関わっていました。

日本とは違い、薬剤師は医師と対等、もしくはそれ以上の場合があります、意見を言うにしてもしっかりとした地位を持っています。ある部屋ではたくさんのパソコンに向かい、調べものや電話をしている薬剤師がいました。患者のカルテを見ながら医師の処方箋を再度確認し、間違いがないかを調べていたそうです。手元には医師への直通電話があり、間違いや疑問点があればすぐに医師に確認できるようになっていました。

二つ目の見学場所は「Union Gospel Mission」という、社会事業団の運営する施設でした。そこではドラッグ中毒、アルコール中毒、お金がなくて生活できない人などの為の支援が行われていました。ダウンタウンの学校に通う途中には綺麗な街並みが目立ち、とても治安の良い場所かと思っていましたが、そうではない所も存在していました。その町に入った瞬間、表しがたいドラッグやお酒や何かが腐ったような匂いがわかるくらいでした。

その施設はそんな人達をただ単に無償で手助けするのではなく、自立した生活を真剣に目指す人に手を貸すといったスタイルで、適当な人や怠ける人が集まるのを避けているそうです。カナダでは物価が安いものの、地価だけが異常に高額であり、それが原因でホームレスが年々増加しているとも聞きました。「Union Gospel Mission」では、各地域の同じような施設と連携をしながら人々を支えています。

3. ホームステイ&観光

留学といえばホームステイ！生活をしているだけで英語を習得でき、外国という地での家族ができます。カナダでの僕の家族は Tony 一家。アジア系でとても温かい家族でした。その家には僕以外にブラジル人と日本人の留学生がいました。ブラジル人の Shim はプログラマーを、日本人のケイスケは教師を目指しており、それぞれ目標は違いますが良い友達ことができました。帰国後もテレビ電話などで連絡を取りあい、近況報告をしています。

外国に行けば建物や景色など全てが日本と違い、考え方が広がり、意識も変わります。観光も大きな意味を与えてくれました。観光する中で街の人と会話する場面もあり、全てがプラスに働きました。今回出来た人との繋がりを大切にしようと思いました。